

昨年度に匹敵する1200人という多数の参加者を得て、子どもたちの「参加の目録」の発表や、参加者の自己紹介で和やかに集いの1日が始まりました。

クロスカントリーには400人、すその道散策には1300人が参加し八木山・愛宕山を縦走、下山後は、餅つきを体験したり、懇親コーナーでつくした餅や湯かいトナ煮・豚汁に舌鼓を打ちながら、新



みんな輪になって先ずは新年のご挨拶

# 1,200人が集う

## 2008 八木山新春の集い

1月13日(日)、初春の恒例の「八木山新春の集い」が盛大に開催されました。天候が危ぶまれましたが、恵まれた好天に雨で水浸しのグランドも早く乾燥し、役員総出で準備することになりました。



森市長も飛び入り参加

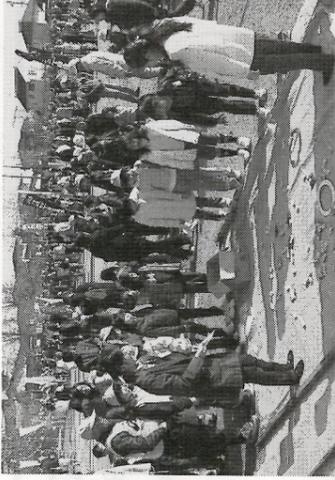
年の互礼会に相応しく和やかに懇親を深めました。

例年話題になる大鍋(トナ煮・豚汁)は、今年も参加者が多く心配しましたが、自治会との協力もあって、今年も参加された皆さん全員に味わっていただけたのではないかと思います。

フレンドリーラザでは、お馴染みのスポーツコーナーや遊びコーナーも盛況で、中学生コーナーでは、今年も地域子ども教室の皆さんの指導



クロスカントリー、山頂で小休止



子どもたちに結構人気の輪投げコーナー

小学校からは今年も皆で栽培したダイコンを提供していただき、6年生の児童にも手作りスタンプの製作で協力して貰いました。

多くの方々の協力を得て、「2008新春の集い」も盛況のうちは無事終えることができました。役員皆さん、参加いただいた住民の皆さんに感謝致します。

住民が自由に参加しふれあいを深めるこの催しを、校区の伝統行事として継承していくため、今後とも協力をお願い致します。【事務局】

で、私たちが子どもの頃、様々な工夫を凝らし夢中になった風作りやメンコあそびなどが人気を集めていました。今は滅多に見られないこの風景、現代の子どもたちに昔懐かしい遊びの文化を体験させる良い企画であつたと思います。

今年も校区の中学生が準備段階から参加、自分たちでそれぞれ担当を決め、自治会の大鍋材料の準備作業や当日の放送係をはじめ、様々な役割で頑張り、また高校生や青年ボランティアの皆さんもサポートしてくれました。

若い力は今後の協議会活動の一翼を担ってくれるものとおおいに期待しています。

# ネットワーケ八木山

発行責任  
八木山まちづくり協議会  
社務/八木山連合支部  
秘書/五連合自治会  
つづしが丘第一自治会  
編集  
八木山まちづくり協議会  
事務局/広報担当

## 出来る時に出来る事を!!

### 青年ボランティア 地域への取り組み

雨の中の櫓組みに始まった青年ボランティア。7月の釜踊りから夏まつり、健康ウォーク、そして新春の集いと、その時々にメンバーの人数は違っていますが、必ず何人が参加してくれました。

きっかけ、思いはそれぞれですが皆一生懸命。ある時は大人の方の指導を受けながら働き、ある時は中学生ボランティアのリーダーとして頼もしい姿を見せてくれました。

青年ボランティアの中心になっている何人かが今年20才になりました。彼らもいつか八木山を築立っていくと思

いますが、活動に参加したことで、「ふるさと八木山」は彼らの心に一層強く残るものと思います。

中学生ボランティアは学校の協力もあつて軌道に乗っております。彼らが中学を卒業した後、次は青年ボランティアとして後輩をリードしていかなくてはと思っています。

彼ら若い世代が活動に参加することで、八木山はもっと元気になるでしょう。

今年には更に多くの青年ボランティアの参加を募り、活動の場を広げて行きたいと思っています。

「出来る時に出来る事を!」より多くの若者が、八木山の「縁の下を力持ち」になってくれることを願っています。

【事務局 青少年育成担当】

## 八木山の福祉活動 活性化の方向を探る

### 2月9日 第3回地域コミュニティ会議開催 願いは「福祉コミュニティの創造」

当日は、市福祉課および市社協関係者を招き、校区から福祉推進員、民生児童委員、近隣ケア等関係者30名が出席、活発に意見を交換しました。

当支部が目標とする「福祉コミュニティの創造」に向け、民生児童委員や近隣ケア等関係者の方々の地域に密着した小グループ活動は重要と、そこで今回は、

- 自治会・地域住民・社会福祉協議会とボランティア
- 近隣ケア活動の活性化のための仕組みづくり

にテーマを絞って意見を述べ合いました。様々な思いや問題が提起されましたが、中でも、活動に携わる方々の共通した切実な問題として、

- 近所の情報(福祉サービス)を必要とする方への提供
- 近隣ケアの活動・存在が地域に認識されていない

近隣ケアの交代要員・引き継ぐ次の世代がなかなか見つからない。

等が挙げられ、対策として、

- 地域の状況を把握している自治会との協力体制の確立。
- 近隣ケア等の活動や福祉の内容・進め方など、行政から住民への分かり易いPR。

等が関係者の一致した要望でした。

福祉ボランティアは身近なところからの広がり基本ですが、自治会と緊密に連携、情報を提供し合い協力して推進することで、活動もより活性化し、サービスを必要とする人たちの把握や、ボランティア要員の確保も円滑に行なえるのではないかと思います。

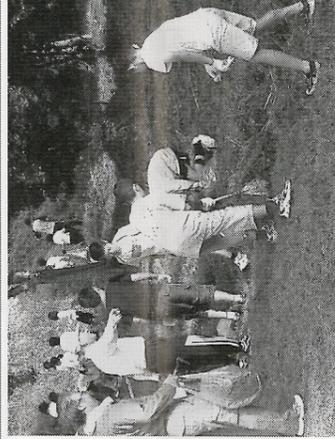
今回の結果が今後の活動に反映され、福祉コミュニティの創造に向け、更に前進することを期待しています。

【協八木山連合支部 福祉推進員】

## 八木山まちづくり協議会 平成19年度の活動を振り返る

年度最後の行事「新春の集い」も無事に終え、平成19年度の協議会活動も締め括りの時期となりました。

この1年間、4大行事を中心し、より多くの住民の皆さんに参加していただくことを願いながら、活動に取り組んできました。



シニアクラブの人たちと一緒に市民清掃

「市民清掃」は、今年も夏・秋の2回、住民総参加のもと実施され、協議会も小・中学生がシニアクラブや関係役員等の指導で草刈り清掃を行いました。今年度は清掃場所の見直しや事前に下刈りを行なう等、住民高齢化や協力団体の負担軽減、安全確保など積年の課題に1歩踏み込んだ対応が出来たものと思います。

「夏祭り」は、激しい雷雨のため「炎の祭典」の半ばで打ち切るといった過去に例のない結果となりました。参加者の安全という重い責任に正面から向き合い、多くの教訓を得た記憶に残る1日でした。

「健康ウォーク」は、開会式の短縮や新経路の取り入れ、グリーンオリエンテーリング等、6回目となる今年度は「新鮮味」に拘った内容に見直し、参加者には概ね満足していただけたものと思います。

「新春の集い」は、本紙に掲載の通り今年も大盛況でした。4大行事以外にも、今年度は、市の協力の下、300人の

住民ボランティアの協力を得て、校区主催の「枯松一掃事業」を実施、八木山三山の自然保護・保全活動に大きな1歩を記しました。

今年度は校区の中学生が行事にスタッフとして全面的に参加、また、八木山小・鶴沼中の春の遠足や八木山登山、あるいは地域ボランティアである「八木山自然の会」が活動とともにする等、学校と地域の関わりも着実に理想の形に近づきつつあります。

協議会は数年来若い世代の参加促進に取り組んで来ましたが、中学生に続き高校生や青年ボランティアの姿も見られるようになり、関係者の努力も徐々に実を結びつつあります。

急速に進む少子高齢化で校区の住民構成も大きく変化し、福祉を含め協議会の活動もその地域の現状に合った在り方が求められています。従来のやり方に拘らず、住民の皆様との理解を得ながら一体となって推進することが、望まれるまちづくりの活動の姿であらうと思います。

次年度も更に充実した活動が出来ますように、皆様の一層のご理解ご協力をお願い致します。【連絡協議会・事務局】



枯松一掃事業「八木山を美しくする一日」

